

2 判定票の記入例

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

手引き-22,30

調査票		調査日時	令和〇年 〇月 〇日 14時	調査番号	A-2
		地震名又は降雨災害名	〇〇沖地震		
被害発生場所	東京都道府県		市郡	〇〇区	町村
	地区 団地		〇〇町	1丁目	2番 3号
所有者・管理者氏名	判定太一	記入者氏名	調査太郎	TEL: 0987-65-4321	
所有者・管理者の 連絡先	携帯電話	居住者への 説明	<input checked="" type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了		
	TEL: 090-1234-5678		<input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 老人単居住宅		
<被災状況図>				応急措置	<input type="checkbox"/> 済 <input checked="" type="checkbox"/> 未了
				被災無	<input type="checkbox"/> 簡易記録

- ・調査日時 本日 14時
- ・地震名 〇〇沖地震
- ・調査番号 被災場所 - 整理番号 - 被災発生箇所
- ・被災発生箇所 東京都 〇〇区 〇〇町 1丁目 2番 3号
- ・所有者氏名 判定太一
- ・所有者連絡先 携帯電話 090-1234-5678

27

被災状況図のチェック

手引き-22,30

記入例②

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	令和〇年 〇月 〇日 14時	調査番号	A-2
		地震名又は降雨災害名	〇〇沖地震		
被害発生場所	東京都道府県		市郡	〇〇区	町村
	地区 団地		〇〇町	1丁目	2番 3号
所有者・管理者氏名	判定太一	記入者氏名	調査太郎	TEL: 0987-65-4321	
所有者・管理者の 連絡先	携帯電話	居住者への 説明	<input checked="" type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了		
	TEL: 090-1234-5678		<input type="checkbox"/> 居住者不在 <input type="checkbox"/> 老人単居住宅		
<被災状況図>				応急措置	<input type="checkbox"/> 済 <input checked="" type="checkbox"/> 未了
				被災無	<input type="checkbox"/> 簡易記録

1.クラック 2.水平移動 3-1.不同位下 3-2.凹地の埋合 4.ハラスミ 5-1.傾斜 5-2.陥没 6.崩落の発生 7.雨 8.土留し 9.土留しの劣化 10.排水設備の劣化

※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。
ただし、調査報告が分かるよう被災箇所を白紙に図示し、被害が強いことが確認できる簡易図を添付する。

【平面図】 【断面図】

被災写真の有無 有(写真番号) A-2 ①~④

特記事項
家裏が傾斜に当たっているので傾斜が顕著すると家裏にも被害が及ぶ危険性がある。また、ハラスミの進行により、歩行者、車に支障が生じるため非常に危険である。

28

2 被災状況図の記入例(無被害)

手引き-22,30

(7)被災状況図

①被災項目

並んでいる図(1~11)から該当するものを○で囲む(複数可)。

<被災状況図>										応急措置 <input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了
										<input checked="" type="checkbox"/> 被災無 <input checked="" type="checkbox"/> 簡易記録
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損	7.崩壊		
8.掘出し床版付擁壁の支柱の損傷	9.基礎及び基礎地盤の被害	10.排水施設の変状				建物・道路との位置関係(基礎点)				
<p>※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。</p>										

29

被災状況の記入例

手引き-22

<被災状況図>										応急措置 <input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未了
										<input type="checkbox"/> 被災無 <input type="checkbox"/> 簡易記録
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損	7.崩壊		
8.掘出し床版付擁壁の支柱の損傷	9.基礎及び基礎地盤の被害	10.排水施設の変状				建物・道路との位置関係(基礎点)				
<p>※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。</p>										

30

2 被災状況図の記入

※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。
ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。

【平面図】 【断面図】

被災写真の有無 無 有り(写真あり) A-2 (1/2)

特記事項	家屋が崩壊に迫っているので増し積みが倒壊すると家屋にも被害が及ぶ危険性がある。また、ハラミの進行により、歩行者、車に支障が生じるため非常に危険である。
------	---

31

2 被災状況図の記入(平面図)

手引き-22

① 平面図

- 住宅地図及び地形図から被災現場周辺を切り抜き、被災現場を○で囲み、貼り付ける。
- 手書きの場合も、周辺の状況が分かるように(道筋や目印になる建物等)書くこと。
- 被災状況を記入する。



32

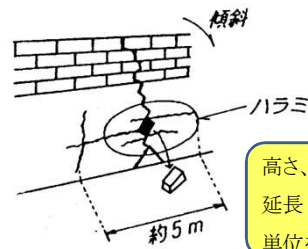
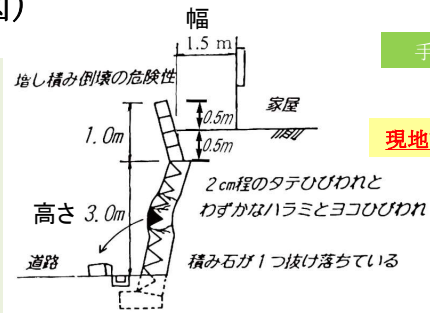
2 被災状況図の記入(断面図)

②断面図

・高さ、幅・長さ等被災範囲が分かるように又、被災状況を書く。
 ・擁壁上下の家屋までの最短距離を必ず記入する。

・家屋については、用途(住宅、非住宅等)・構造(木造、RC造、プレハブ、鉄骨等)・階数がわかる様記入する。

・断面図だけでなく、正面図や立体図も必要に応じて書き入れる。
 また、被害状況の説明も記入する。



高さ、幅の規模を記入。
 延長(奥行き)も記入する。
 単位をしっかりと書く。

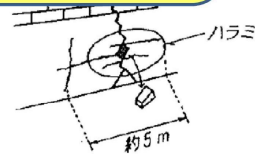
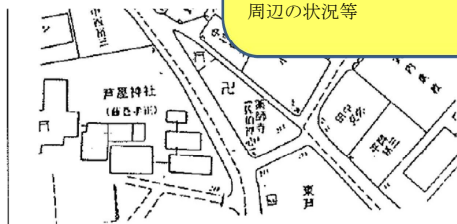
手引き-22

現地でスケッチ

33

3 特記事項の記入

- ・今後予想される危険性
- ・応急措置がとられている場合はその内容
- ・応急措置がとられていない場合は取るべき措置
- ・住民の方にアドバイスした事項 相手方氏名電話番号・被災宅地の周辺の状況等



[平面図]

[断面図]

被災写真の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有→写真番号 [A-1 ①~⑩]
特記事項	家屋が擁壁に迫っているので増し積みが倒壊すると家屋にも被害が及ぶ危険性がある。また、ハラミの進行により、歩行者、車に支障が生じるため非常に危険である。

手引き-22

34

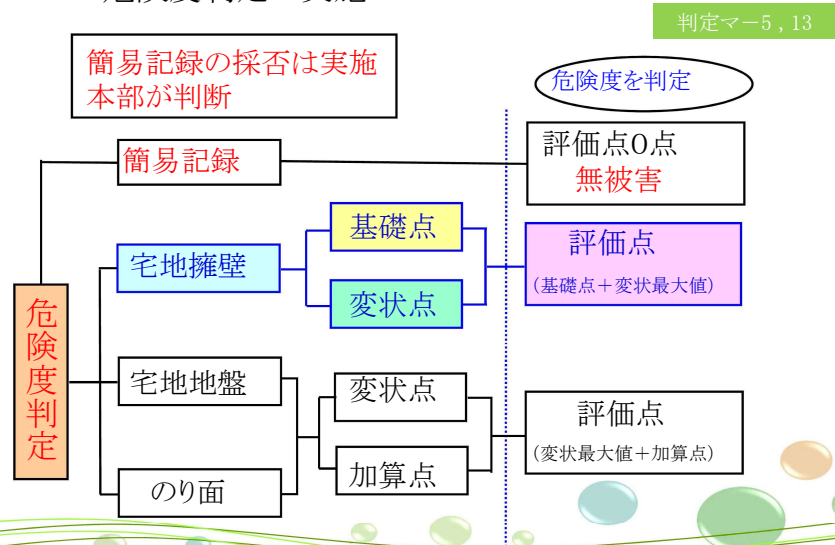
34

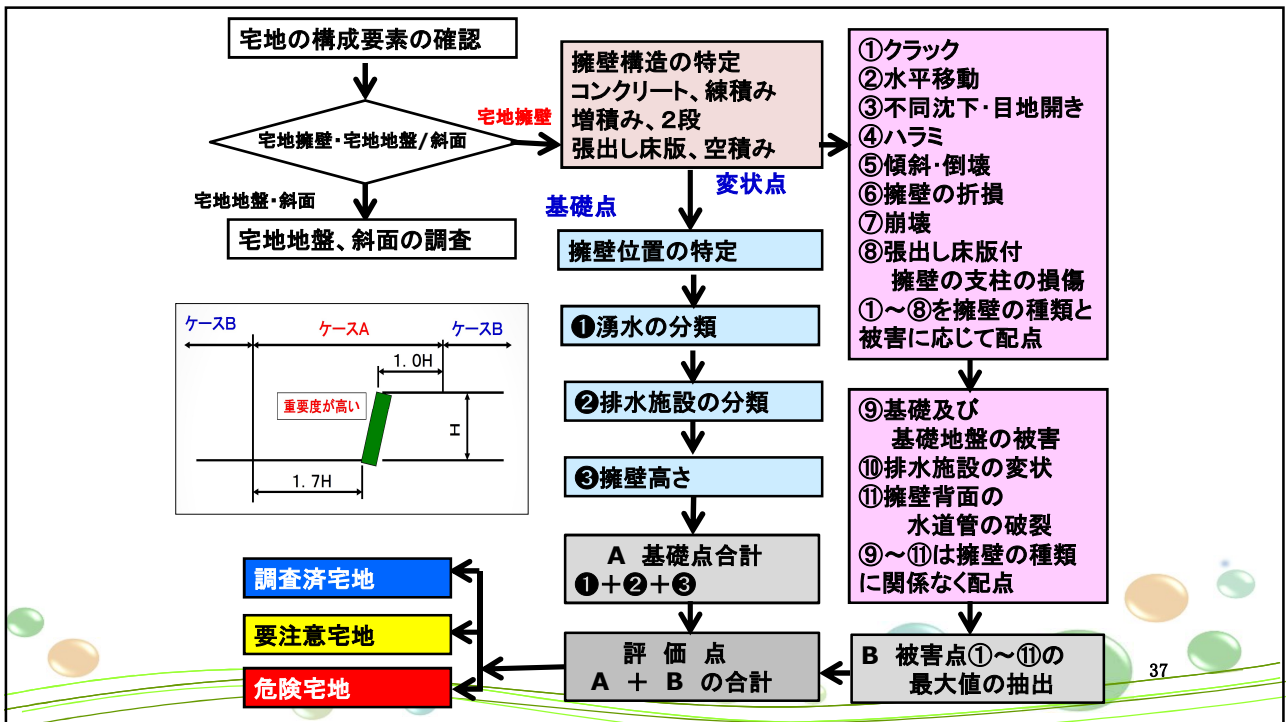
Part III: 宅地擁壁の調査票

- ・擁壁の調査全般
- ・適用
- ・調査の内容、準備、実施



危険度判定の実施フロー





宅地擁壁の危険度判定手順

(様式-1) 宅地擁壁

手引き-14,15

項目	調査内容	調査結果	配点
1. 擁壁の種類	コンクリート、練積み、増積み、2段、張出し床版、空積み	コンクリート、練積み、増積み、2段、張出し床版、空積み	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
2. 擁壁の高さ	擁壁の高さ	擁壁の高さ	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
3. 擁壁の位置関係	擁壁の位置関係	擁壁の位置関係	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
4. 基礎点	基礎点	基礎点	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
5. 変状点	変状点	変状点	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
6. 被害点	被害点	被害点	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
7. 評価点	評価点	評価点	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
8. 危険度	危険度	危険度	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11

擁壁の基礎的条件

擁壁の種類・高さ・勾配等を記入

基礎点

擁壁の位置関係と基礎点項目の配点

変状程度の判定と変状点の配点

変状程度(大・中・小)を判定

変状のチェックは複数記載が可能

変状点の最大値を抽出する

危険度の配点と危険度の判定

宅地擁壁の被害の評価

判定マ-16

点数 判定区分

判定(※要約)

0点	無	防災上問題なし	
4.5点 未満	小	小さな傷害は補修、雨水侵入を防止すれば、当面の危険性は少ない	調査済宅地
4.5点 ~8.5 点未満	中	変状は顕著、経過観察及び継続的に点検、必要に応じ勧告、改善命令、防災工事の必要性の要検討	要注意宅地
8.5点 以上	大	変状が特に顕著で危険、早急に勧告、改善命令、防災工事の実施	危険宅地

39

擁壁の基礎的条件

手引き-15.23

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	<input type="checkbox"/> 逆T型	<input type="checkbox"/> 重力式	<input checked="" type="checkbox"/> 増積み擁壁	増積部分	化粧ブロック]	
		<input type="checkbox"/> もたれ式			擁壁部分	間知石練石]	
		<input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 二段擁壁	全擁壁高	3.5 m	増設高	0.5 m
		<input type="checkbox"/> 場打打ち	<input type="checkbox"/> プレキャスト		上部]		
<input type="checkbox"/> 練石積擁壁	<input type="checkbox"/> 間地石	<input type="checkbox"/> コンクリートブロック	<input type="checkbox"/> 張出し床面擁壁	下部]			
<input type="checkbox"/> その他		上部高		m	下部高	m		
<input type="checkbox"/> 空石積擁壁	<input type="checkbox"/> 玉石積	<input type="checkbox"/> くず石積	擁壁の設置条件	<input type="checkbox"/> その他]	
<input type="checkbox"/> その他				<input type="checkbox"/> 切土・盛土境 <input type="checkbox"/> 軟弱地盤上 <input type="checkbox"/> 他 <input checked="" type="checkbox"/> 不明				
			擁壁の勾配	度又は(1 :)				

①擁壁の種類

コンクリート造、練石積、空石積、増積み、二段擁壁、張出し擁壁

②擁壁の設置条件

切盛境に位置しているか、軟弱地盤上にあるかをチェック、不明の場合はその旨をチェック

③擁壁の勾配

勾配定規(スラントルール)を使用

40

擁壁の種類

判定マ-18

表3-5 石積擁壁の種類と概要

	練石積	雑割石積 (ガンタ積)	間知ブロック積
① 練石積			
	モルタルやコンクリートを接着剤や固定材に用いて、石又はコンクリートブロックを積み上げた擁壁で、ガンタ積みや間知ブロック積みなど古い擁壁も見られる		
	玉石積み	大谷石積み	
⑥ 空石積			
	一般に施工時期が古く、石の表面が風化していることが多い。クラックや抜け石がみられることもある。		

41

擁壁の種類

判定マ-19

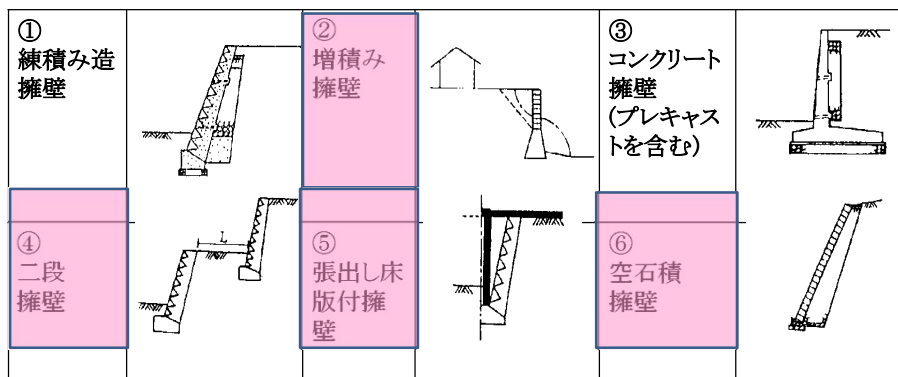
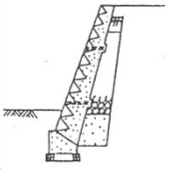

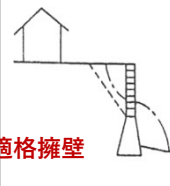



図3-2 擁壁の種類

42

(2) 擁壁の種類

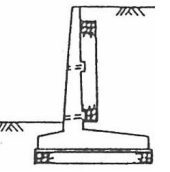

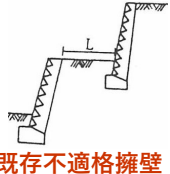

判定マー18

擁壁の種類	模式図	写真例
①練石積		
②増積み 既存不適格擁壁		

43

(2) 擁壁の種類

判定マー19

擁壁の種類	模式図	写真例
③コンクリート系 (プレキャストを含む)		
④二段 既存不適格擁壁		

44

(2) 擁壁の種類

擁壁の種類	模式図	写真例
⑤ 張出し床版付	<p>既存不適格擁壁</p>	
⑥ 空石積み	<p>既存不適格擁壁</p>	

図3-1に示す建物、道路との位置関係に関して、湧水・排水施設等・擁壁高さのそれぞれの点数を表3-2のA、Bのケースごとに加点したものを基礎点数とする。ただし、簡易記録の場合は採点しなくてもよい。

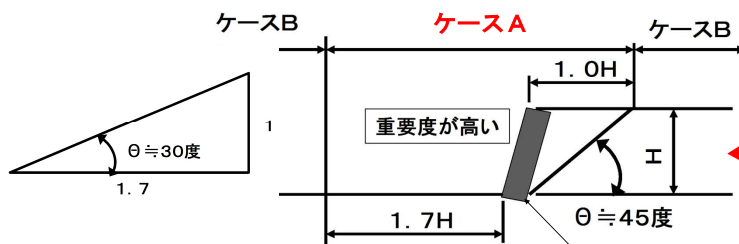


図3-1 建物、道路との位置関係

表3-2 建物、道路との位置関係

ケース	条件
A	影響範囲に建物または道路が存在する
B	影響範囲に建物または道路が存在しない

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票	調査日時	年	月	日	調査番号
調査者	調査機関	調査区域	必要	区町村	
所有主・管理責任者氏名	法人名氏名	TEL:	番	号	
所有主・管理責任者の連絡先	法人名氏名	TEL:	番	号	

< 調査状況 >

調査項目	調査結果	危険度判定
擁壁の高さ	1.0H	危険
擁壁の傾斜	theta approx 45度	危険
擁壁の構造	空石積み	危険
擁壁の基礎	張出し床版付	危険
擁壁の状況	重要度が高い	危険
擁壁の位置	影響範囲に建物または道路が存在する	危険

調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

擁壁の基礎点

ケースA

ケースB

手引き-15,23

基礎点	内容	影響範囲で建物または道路がある時	影響範囲で建物または道路がない時	基礎点計 ①・②・③
		0	0	
①湧水	乾燥	0	0	0.4
	湿潤	0.4	0.2	
	にじみ出し、流出	0.8	0.4	
②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透防止	0	0	
	水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2	
	水抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.4	
③高さ	$H \leq 1m$	0	0	
	$1m < H \leq 3m$	0.2	0.1	
	$3m < H \leq 4m$	0.4	0.2	
	$4m < H \leq 5m$	0.6	0.3	
	$5m < H$	0.8	0.4	

① 湧水

・湧水の有無をチェックする。有りの場合、湿潤か、にじみ出し・流出かをチェックする。

② 排水施設

・排水施設の設置状況を天端付近の排水施設と水抜孔の状況により区分した表によりチェックする。

③ 擁壁の高さ

・擁壁の高さ(地上高さ)の最大値が該当する部分の点数を○で囲む。

47

①湧水の状況分類

表3-7 湧水の状況分類表

判定マ-21

分類	内容	模式図
乾燥	擁壁表面が乾いている。	
湿潤	常に擁壁表面が湿っている。 擁壁背後が湿潤状態で目地や水抜穴から湿気が感じられる状態。	
にじみ出し、流出	水がにじみ出し、流出している。 水抜穴はあるが、天端付近で水が浸透しやすい状況にあり、かつ湧水がある場合。	

注) 乾燥状態の場合は、水抜穴の詰まりを確認する。



48

①湧水の配点と内容

判定マ-21

表3-8 湧水の配点と内容



区分	項目	分類		配点		後背地の湧水の影響で水抜穴の周りがどのような感じか
				A	B	
地盤条件	湧水	乾燥	良い ↑ ↓ 悪い	0	0	表面が乾いている
		湿潤		0.4	0.2	表面が湿っている
		にじみ出し・流出	0.8	0.4	水がにじみ出し、流出している	

49

①湧水の状況分類

判定マ-22

表3-9 湧水の着目点

	練石積擁壁	コンクリート擁壁	
① 乾燥			
	擁壁の崩壊の素因となる地下水の排水が良好で、安全な状態である。ただし、水抜穴が閉塞していないが注意する。		

50



①湧水の状況分類

表3-9 湧水の着目点

	擁壁表面が湿っている	水抜き穴にコケが生育	水抜き穴に草本が生育
② 湿潤			
<p>積石等の間から水がしみ出ている場合は、常に擁壁表面が湿っていると判断する。 水抜き穴に手を入れた際の湿った感触や、コケや草本類の生育状況等から判断する。</p>			

①湧水の状況分類

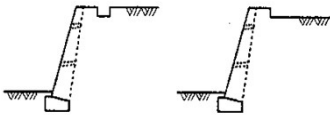
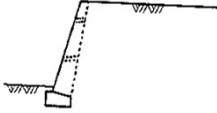
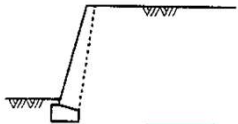
表3-9 湧水の着目点

	水抜き穴から流出	最近水が流出した痕跡	水の流出跡にコケが生育
③ にじみ出し 流出			
<p>水抜き穴から水が流れ出している場合や、最近流出した痕跡が残っている場合も、水がにじみ出している状態として判断する</p>			

②擁壁の排水施設

手引き-7

表-3 排水施設の設置状況分類表

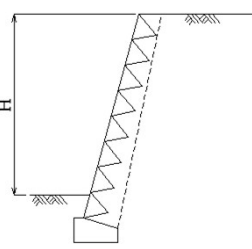
分類	内容	模式図
(イ)タイプ	水抜孔及び天端排水溝があり天端付近で表面水の地盤への浸透が阻止されている場合。	
(ロ)タイプ	水抜孔はあるが、天端付近で表面水が浸透しやすい状況にある場合	
(ハ)タイプ	水抜孔が設置されていないか、あっても宅地造成等規制法及び都市計画法の基準を満たしていない場合(1ヶ所/3㎡、φ≧75mm)ただし、空積みの場合の対象外とする	

53

③擁壁の高さ

判定マー-25

表3-13 擁壁高さの配点

区分	項目	分類	配点		擁壁高さ H
			A	B	
構造諸元	擁壁高さ	$H \leq 1\text{m}$	0	0	
		$1\text{m} < H \leq 3\text{m}$	0.2	0.1	
		$3\text{m} < H \leq 4\text{m}$	0.4	0.2	
		$4\text{m} < H \leq 5\text{m}$	0.6	0.3	
		$5\text{m} < H$	0.8	0.4	

基礎点計
基礎点 = 湧水 + 排水施設等 + 擁壁高さ

54

基礎点の配点

手引き-15

(様式-1) 宅地擁壁 (手引き-15)

区分	項目	小				中				大			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1 クラック	無	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2 水平割	無	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14



基礎点	項目	□影響範囲に建物または道路がある	□影響範囲に建物または道路がない(B)	基礎点計 ①+②+③
		点	点	
①湧水	乾燥	0	0	8.4
	湿润	0.4	0.2	
	にじみ出し、流出	0.8	0.4	
②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透防止	0	0	8.4
	水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2	
	水抜孔無、あっても敷・寸法が不适当	0.8	0.4	
③高さ	H ≤ 1m	0	0	8.4
	1m < H ≤ 3m	0.2	0.1	
	3m < H ≤ 4m	0.4	0.2	
	4m < H ≤ 5m	0.6	0.3	
	5m < H	0.8	0.4	

「①湧水+②排水施設+③擁壁の高さ」の合計値

危険度判定

□ 大	□ 中	□ 小	□ 無
-----	-----	-----	-----

※危険度判定は、危険度の低い者とし、危険度の高い者は、危険度の低い者とする。

変状程度の判定と配点

手引き-23

区分	項目	小				中				大			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1 クラック	無	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2 水平割	無	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
3 傾斜	無	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14

配点表

区分	項目	小		中		大	
		点	点	点	点	点	点
1 クラック	2mm未満	2mm未満かつ深さ10mm未満	0.4	2mm-5mm	0.8	5mm以上かつ深さ10mm以上	1.2
	5mm未満	5mm未満かつ深さ10mm未満	0.8	5mm-10mm	1.2	10mm以上かつ深さ10mm以上	1.6
	10mm以上	10mm以上かつ深さ10mm以上	2.0	10mm以上かつ深さ10mm以上	2.0	10mm以上かつ深さ10mm以上	2.0
2 水平割	無	0	0	5mm未満	0.4	5mm以上かつ深さ10mm未満	0.8
	5mm未満	0.4	0.4	5mm-10mm	0.8	10mm以上かつ深さ10mm未満	1.2
	10mm以上	1.2	1.2	10mm以上かつ深さ10mm以上	1.6	10mm以上かつ深さ10mm以上	2.0
3 傾斜	無	0	0	2mm未満	0.4	2mm以上かつ深さ10mm未満	0.8
	2mm未満	0.4	0.4	2mm-5mm	0.8	5mm以上かつ深さ10mm未満	1.2
	5mm未満	0.8	0.8	5mm-10mm	1.2	10mm以上かつ深さ10mm未満	1.6

変状の程度の概要説明

危険度の判定

基礎点 + 変動点 = 8.4 点

危険度判定

□ 大	□ 中	□ 小	□ 無
-----	-----	-----	-----

※危険度判定は、危険度の低い者とし、危険度の高い者は、危険度の低い者とする。

変状の程度(大・中・小)の概要説明

手引き-23

項目/程度	小	中	大
1 クラック幅	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)	2mm~20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm~5mm未満)	20mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)
2 水平移動(併輪直地前後のずれ)	5mm未満の隙間変位がある。	5mm~50mm未満の隙間変位がある	50mm以上の隙間変位がある
3 不況沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上上のずれ又は目地の開きがある。	5mm~50mm未満の目地上上のずれ又は目地の開きがある。	50mm以上の目地上上のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。
4 ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜き)	小規模のハラミ及び目地崩れ(積石か1層壁は抜ける)	宅地地盤にテンションクラック無し(1層すべりのおそれ無し)	宅地地盤にテンションクラック有り(1層すべりのおそれ有り)
5 傾斜・剥離	擁壁が前面地盤に対し垂直以下、(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm未満の傾斜)	擁壁が前面地盤に対し垂直以上、(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm以上の傾斜)	擁壁が前傾・倒壊してその機能を失っているもの。
6 擁壁の折損(横・ななめび対面から起きるもの。はらんでいないが油断なく、クラックを境に鈍角に折れている)	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)	クラックを境に明らかに角度をなしており、掘り出しあり、露みコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)	一見して大であると判るもの。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。)
7 崩壊	中程度りから上が滑っている。	基礎部を残して滑っている。	機能を果たしていない。
8 張り出し床板が擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。	支柱のコンクリートが剥がれて鉄筋が見えている。	支柱の剪断破壊
9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。		
10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端前面、側面クラックが見られる。	左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。	水抜孔の詰まり、破損あり、排水機能が失われている。
11 擁壁前面の水道管等破裂	破裂して水が漏出している。		

57

擁壁の変状形態と変状点

手引き-23

区分	項目	小					中					大							
		コンクリ	擁壁	増設	2段	露出	コンクリ	擁壁	増設	2段	露出	コンクリ	擁壁	増設	2段	露出			
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5	25	35	4	5	7	4	5	6	7	8			
	2 水平移動	2	25	35	4	6	6	35	4	45	5	7	7	5	55	6	7	9	9
	3 不況沈下・目地の開き	3	35	4	5	7		45	5	6	7	9		6	7	8	9	10	10
	4 ハラミ			45	5	6	8	8		6	8	9	9		8	9	10	10	10
	5 傾斜・剥離	5	55	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	
	6 擁壁の折損	6	65	7	8	9		7	8	9	10		8	9	10	10	10		
	7 崩壊			9	9	10	10	8		10	10	10	9		10	10	10	10	10
	8 張り出し床板が擁壁の支柱の損傷					7						9							10
	9 基礎及び基礎地盤の被害											10							
	10 排水施設の変状				3							5							7
	11 擁壁前面の水道管等破裂											10							
	項目/程度	小					中					大							

58